

<p>子ども虐待への 予防・対応活動</p>	<p>1．虐待予防・支援のための保健医療相談活動</p> <p>1) 専門家への対応と事例への対応 虐待・虐待予防に関する保健医療相談は 1,546 件で全相談の 36.3%であり、その比率は年々増加している。専門家との相談が 617 件(40.0%)と最も多く、次いで母の 666 件(43.1%)であった。相談の内容は親への支援 1,258 件(81.4%)、子どもへの虐待 207 件(13.4%)、子どもへのケア 75 件(4.9%)等であった。時間外電話相談にも 13 件の相談があった。</p> <p>2．院内での虐待の早期発見・支援活動</p> <p>1) 虐待ネットワーク委員会ケース検討会議の実施 今年度新規事例 30 事例、継続事例 17 事例、計 47 回開催した。地域関係機関を含めた検討会議は 42 事例、院内関係者のみでの検討会議は 5 事例、延べ 520 名の関係者の参加があった。</p> <p>2) 院内虐待ケースの進行管理カンファランスの実施・充実 月 1 回を目安に計 9 回開催した。今年度新規事例 106 事例、延べ 155 事例について進行管理を行った。また、平成 17 年から虐待新規事例の現在の受診状況や地域での支援状況についての調査を実施しているが、平成 20 年の新規事例 120 件については、継続受診中が 83 件(69.2%)、転院・終了が 24 件(20.0%)、治療は中断だが地域での支援が継続している事例が 10 件(8.3%)で、治療中断でかつ状況が不明は 3 件(2.6%)であった。平成 17 年の新規報告事例 186 例のうち 2 例(1.1%)、平成 18 年の新規報告事例 144 例のうち 1 例(0.7%)、平成 19 年の新規報告事例 127 例のうち 1 例(0.8%)が、平成 20 年中にあらたに不明となった。</p> <p>3．周産期からの虐待予防活動</p> <p>1) ハロー・ファミリーカード事業の拡大・充実 平成 17 年度より西尾保健所管内の医療機関・助産施設、保健機関と協働で開始したプロジェクトを、平成 19 年度には衣浦東部保健所管内に拡大し、平成 20 年度からは、当センターの事業として活動した。平成 20 年 12 月からは豊川保健所と田原市・1 医療機関でカードの配布を開始した。これまでカードの配布を行っている西尾・衣浦東部保健所管内へは会議や利用状況調査などを通してカードの活用の促進を図った。 プロジェクト参加機関のスタッフの意識向上を目的にハロー・ファミリーカード通信(ファミカ通信)第 1 号を発行した。</p> <p>2) 保健機関における周産期から乳幼児期の保健活動の集約と医療機関等への情報提供 周産期医療機関との連携を図るため、保健機関に対し、乳幼児期の母子保健活動についての情報更新を依頼し、ホームページに情報を提供した。</p> <p>3) 研修会の開催</p>
----------------------------	---

	<p>広島県立病院新生児科部長の福原里恵氏を講師として、周産期医療現場スタッフが取り組む子育て支援に関する研修会を開催した。吉良町の助産師と田原市の保健師が活動の実際について報告した。周産期医療機関、保健機関など計 93 名の参加があった。</p> <p>4) 調査・研究</p> <p>平成 20 年度 厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)で、医療機関と保健機関の連携状況に対する調査を実施した。</p> <p>ハロー・ファミリーカードプロジェクト参加機関に対し、子育て支援に関する意識調査を実施した。</p>
<p>時間外電話相談活動</p>	<p>1. 専用電話相談窓口「育児もしもしキャッチ」の運営</p> <p>電話相談員の体制を 1 日当たり 3 人として実施したが、相談員の確保が困難(必要人員の 87%の充足率)で、しばしば平日も 2 人体制で実施した。相談件数は、6,294 件で昨年度(6,471 件)の 97.3%であった。対応不能件数 2,381 件を加えた総着信数は 8,675 件(H19 年度 8,866 件)であった。</p> <p>2. 専門相談員の連絡会(研修会)</p> <p>本年度から、相談事例の検討を中心とした研修会を実施することとし、</p> <p>1. 「ケガ、誤飲」への対応、2. 「育児不安を訴える母」への対応、3. 「妊娠や授乳と薬に関する相談」、4. 「育児不安を訴える母」への対応、5. 「急な発熱・下痢」への対応と 5 回実施した。(参加者計 44 名) また外部講師による電話相談技術研修会を開催し、講義「電話健康相談で提供できること」、ロールプレイ「電話健康相談アセスメント」、グループワーク「事例検討、逐語記録から」を実施した(参加 17 名)</p> <p>また、時間外電話相談の業務手順、約束、苦情対応などを盛り込んだ時間外電話相談員業務マニュアルの作成、時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」相談情報分析、育児もしもしキャッチの広報活動として、カード・ポスターの配布、相談員確保のための活動を実施した。</p>
<p>子どもの事故予防活動</p>	<p>1. 子ども事故予防ハウスの運営</p> <p>事故予防ハウスには計 209 名(一般 124 名、専門家等 85 名)の利用者を認めた。ハウスでは実際の浴室や階段、台所における予防策の体験や、当センターで作成したビデオ「子どもの事故予防」やパネル等の媒体による事故予防情報の提供している。こうした情報は、Ai 県マガジンや地域の情報誌等に掲載された。</p> <p>2. 子どもの事故予防研修会の実施</p> <p>子ども事故予防ハウスで毎月 1 回実施した「子どもの事故予防教室」(近隣住民対象)には、10 回 106 名が参加した。地域での事故予防に関する教室等として、子育てネットワーカー養成講座(97 名参加)をはじめ、4 か所総計 176 名を対象として実施した。</p> <p>3. 調査研究活動</p> <p>子どもの事故サーベイランス調査を、知多市(平成 14 年 12 月より)、碧</p>

	<p>南市(平成14年11月より)の各保健センター(1歳半健診・3歳児健診)で継続している。平成20年4月～平成21年3月に、知多市では一度でも事故を経験したのは、1歳6か月健診でのチェックシート回答者792人中220人、3歳児健診では813人中182人、碧南市では1歳6か月健診729人中274人、3歳児健診666人中228人であった。それぞれ分析し保健センターに情報還元するとともに、愛知県乳幼児事故予防対策委員会でも報告した。</p> <p>4. 学術活動 愛知県における不慮の事故死亡の現状(東海公衆衛生学会)、事故の重症度と家庭での事故予防策との関連(日本公衆衛生学会)を報告した。</p>
<p>子どもと家族のヘルスプロモーション活動</p>	<p>健康長寿あいち宣言のもと、あいち健康プラザや教育機関とも協力して、子どもからの生涯健康づくりを目指して活動している。</p> <p>1. こどもの生活習慣病予防教室 「アチェメック健康スクール」(こどもの生活習慣病予防教室)は、内分泌科のアチェメック健康スクール外来を中心とした通年型の活動として実施している。 平成20年度参加者は9人(新規7人)で、うち年度中にスクールを終了した者7人中、肥満度が改善した者は5人であった。県内の学校、保健関係者の相談の受け皿、対象児の紹介先の資源として機能している。</p> <p>2. 子育て禁煙外来開設の取り組み センター内で「子育て禁煙外来」開設し、外来や各病棟へ「子育て禁煙外来」の案内ポスターを掲示した。</p> <p>3. センターホームページへ受動喫煙防止の啓発資料の掲載</p>
<p>子どもと家族へのボランティア活動</p>	<p>1. ボランティア受入状況 平成20年度新規登録者30人全登録者数64人で、団体登録数は4団体(小児の森プロジェクト・森遊隊、日本ホスピタルクラウン協会、わくわくバルーン、愛知人形劇センター)である。 ボランティア活動時間(H20年4月～21年3月)は、延べ活動者計626人、延べ活動時間1,228時間であった。</p> <p>2. ボランティア活動内容 外来ふれあい活動(プレイコーナー活動)、病棟ふれあい活動(学習ボランティア、イベント)、環境さわやか活動(生花の活け込み、園芸、季節の飾りつけ、ミニ水族館活動)こども図書室(お話し会、月2回)、どんぐりハウス(リビングの生花の活け込み)、事故予防ハウス(受付、説明など)のほか、イベント企画協力、自主グループ活動(21世紀愛知の子ども健康フォーラム出展)、アチェメックの森プロジェクト(センター隣の森の小径づくり4回開催、森遊隊:3回)、ホスピタルクラウンによる病棟訪問(月2回)、ぷくぷくバルーン(年8回)、愛知人形劇センター(年5回)が行われた。</p>

	<p>3. ボランティア研修会 新規登録希望者への講習会と既登録者との交流会をあわせて実施した。内容は、H20.5.17(土)ボランティアとこころの健康；臨床心理士(参加者28名)、H20.7.11(金)外来・病棟で出会う子ども達；看護師(参加者11名)、H20.9.10(水)わくわくチーム医療をめざして；保育士(参加者12名)であった。</p> <p>4. 情報提供 ホームページにボランティア募集と研修、オリエンテーション案内などとともに掲載。ACHEMECの仲間たち-子どもと家族の心に安心と安らぎを-(ボランティア活動報告集8)を発行した。</p>
<p>在宅療養支援 地域との連携 活動</p>	<p>1. ケースを通しての連携 「子育て支援マニュアル」の「ケース連絡票」を用いた連絡は71件で、病棟別連絡件数では21病棟が40件、診療科別連絡件数では、循環器科からの連絡が43件と特に多くなっている。21病棟の40件については、「ケース連絡票」の様式によるものが20件、「HOT ケース連絡票・退院サマリー」による連絡件数は、20件であった。</p> <p>2. 母子保健スキルアップ研修 母の病気による育児困難家庭への育児支援をテーマにとりあげ、母が病気のため子どもの養育が困難な家族に対し、アセスメントや必要な支援の計画、病気を持つ母への支援方法についての理解、関係機関と連携、役割分担しながらの支援ができることを目的として、現場と課題を共有する形の3回のグループワークを中心とした研修を実施した。市町村保健師21名、県保健所保健師3名が、連続3回の研修に参加した。</p> <p>3. 保育リーダー研修 保健室の調整機能と総合診療部の総合的な療育機能を活用し、気になる子を含む、障害を持つ子どもたちの理解と対応の基本的な知識と技術について、地域の一般の保育園等で中心的な役割を担う保育士に対して学習する機会を提供する目的に平成15年度から実施している。平成20年度からは名古屋市子ども青少年局子育て家庭部保育課の協力を得て名古屋市内保育園も対象とし、44名が連続5回の研修会に参加し、成果を「軽度発達障害児の理解と保育 平成20年度保育リーダー研修報告集」にまとめた。</p> <p>4. 訪問看護ステーション研修 平成17年度から、訪問看護ステーションに勤務する看護師等を対象に、小児の受け入れ態勢の充実をめざした研修会を開催している。平成20年度は、小児外科(消化器)疾患の内、IVHやストーマの必要な子どもとその家族への支援をテーマに実施した。内容は、講義「在宅管理を必要とする消化器疾患」講師：副センター長；渡邊芳夫、講義「小児の消化器疾患を持つ子どもへの看護」～退院指導(IVHやストーマなどのケア)について～講師：22病棟看護師；左奈田彩乃・山田千春、講義と実習</p>

	<p>「在宅看護ケアの実際」～ストーマケア・スキンケアを中心に～講師：皮膚排泄ケア認定看護師；中山薫、小児看護専門看護師；田崎あゆみ、22病棟看護師；山田千春・左奈田彩乃、話題提供と意見交換「医療と地域との連携について」で、看護師 20 名、保健師 2 名が参加した。</p>
<p>国際母子保健 医療・学校保健 活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヤング・リーダーズ・プログラム（名古屋大学大学院医学系研究科・医療行政修士コース）：平成 20 年 6 月 10 日～6 月 13 日、研修生 15 名。 2. JICA 本邦研修事業：平成 20 年度集団研修「学校保健」コース 平成 20 年 5 月 18 日（日）～7 月 5 日（土）研修生 15 名（エジプト、カメルーン、コートジボワール、ガーナ、ケニア、ラオス（4 名）、ネパール、ニジェール、南アフリカ、タンザニア、ツバル、ザンビア） 研修は、日本の学校保健制度や学校における取り組みを理解し、自国の学校保健システム改善に資する政策・制度・改善に係る示唆を得て、自国内の関係者に普及させることを目的とし、学校保健の現状認識、現場体験に基づいた学校保健の考察、学校保健システム構築への展望、学校保健の普及活動の内容を実施した。 3. 国際学校保健セミナーの開催 平成 20 年 5 月 31 日（土）10：00～16：00 上記研修コースのジョブレポート報告会を兼ねた公開セミナーで、各国の学校保健の現状について報告された。同研修コースの講師などの専門家（医師、歯科医師、保健師、教員ほか）や、県内の学校で学校保健に従事している養護教諭、学生など 71 名が参加した。 4. JICA エジプト学校保健プロジェクト専門家チームへの協力 平成 20 年度から開始された JICA のエジプト国に対する学校保健プロジェクト（The Project on the Promotion of School Health Service in Upper Egypt）の専門家チームの一員として山崎が同国に派遣され活動した。 <ol style="list-style-type: none"> 1） 第一回目派遣：平成 20 年 12 月 28 日～平成 21 年 1 月 6 日 カイロ市エジプト JICA 事務所、ファユーム県保健人口省、健康保険局などでの講演や会議、プロジェクト対象地域の学校視察等。 2） 第二回派遣：平成 21 年 2 月 16 日～平成 21 年 3 月 7 日 タメイヤ郡でのワークショップの開催・講演、カイロ市でのエジプト国保健人口省、エジプト国教育省、WHO 学校保健担当部署、USAIDS エジプト事務所等での会議等。
<p>愛知県予防接種 センター事業</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接種要注意者、海外渡航者等に対する予防接種の実施 予防接種実施件数 2,210 件（平成 19 年度 1,522 件） 契約市町村数 23 市町（平成 19 年度 21 市町） 2. 保健医療相談及び情報提供 相談件数 1,224 件（平成 19 年度 1,172 件） 3. 予防接種センター調査検討委員会の開催 調査検討委員会 1 回、研究部会 2 回

	<p>4. 調査研究・啓発活動 「麻しん・風しん混合（MR）ワクチンの接種に関するアンケート」実施し、愛知県健康対策課主催感染症研修会において、結果を報告した。</p> <p>5. 愛知県予防接種センター研修会 講演「乳幼児のRSウイルス感染とその対策 ～保健機関の役割～」 参加 42 名</p> <p>6. 学術活動 「愛知県予防接種センターにおける接種困難児への対応」 平成 20 年度愛知県公衆衛生研究会</p>
愛知県遺伝相談センター活動	<p>1. 遺伝相談の実施 遺伝カウンセラーによる面接相談 27 件 保健師による電話相談・面接相談 40 件（面接 11 件、電話 29 件）</p> <p>2. 情報サービス ホームページに遺伝相談について情報掲載。遺伝ネットへの登録医療連携医・市町村・保健所へ遺伝相談案内リーフレットの配布</p> <p>3. 遺伝相談連絡会議の開催（平成 21 年 3 月 12 日）</p>
小児保健医療情報サービス活動	<p>1. ホームページの運営 ページ・アクセス件数は 2,558,182 件（平成 19 年度 2,626,553 件、平成 18 年度 2,679,458 件）月平均 213,181 件（平成 19 年度 218,879 件、平成 18 年度 223,288 件）であった。アクセス数の多いコンテンツは「診療科案内」「外来診療担当医」であったが、「麻疹ワクチンに関する Q アンド A」が 4、5、2、3 月でベスト 10 に入っていた。また、「育児もしもしキヤッチからのメッセージ」、「泣きに関する心配事」など育児に関する情報の閲覧も多かった。 ホームページ更新 46 回。患者・家族会との連携でHP情報の情報を更新。</p> <p>2. 広報誌の発行 あいち小児保健医療総合センターだより「アチェメックの風」計 4 回（第 17 号～第 20 号）発行。</p> <p>3. 母子健康診査マニュアル集計報告 愛知県事業である母子健康診査マニュアルの市町村保健センターからのデータを集計し分析した。</p> <p>4. こども図書室の活動 年間利用者数：7,364 人（子ども：就学前 1,289 人、小学生 1,930 人、中高生 529 人。保護者等：3,616 人） ・図書閲覧及び貸し出し貸出冊数：延べ 3,624 冊、利用者 1,254 人 ・お話し会の実施：年間 44 回、参加者数 1,257 人 ・インターネット利用者；640 人</p>